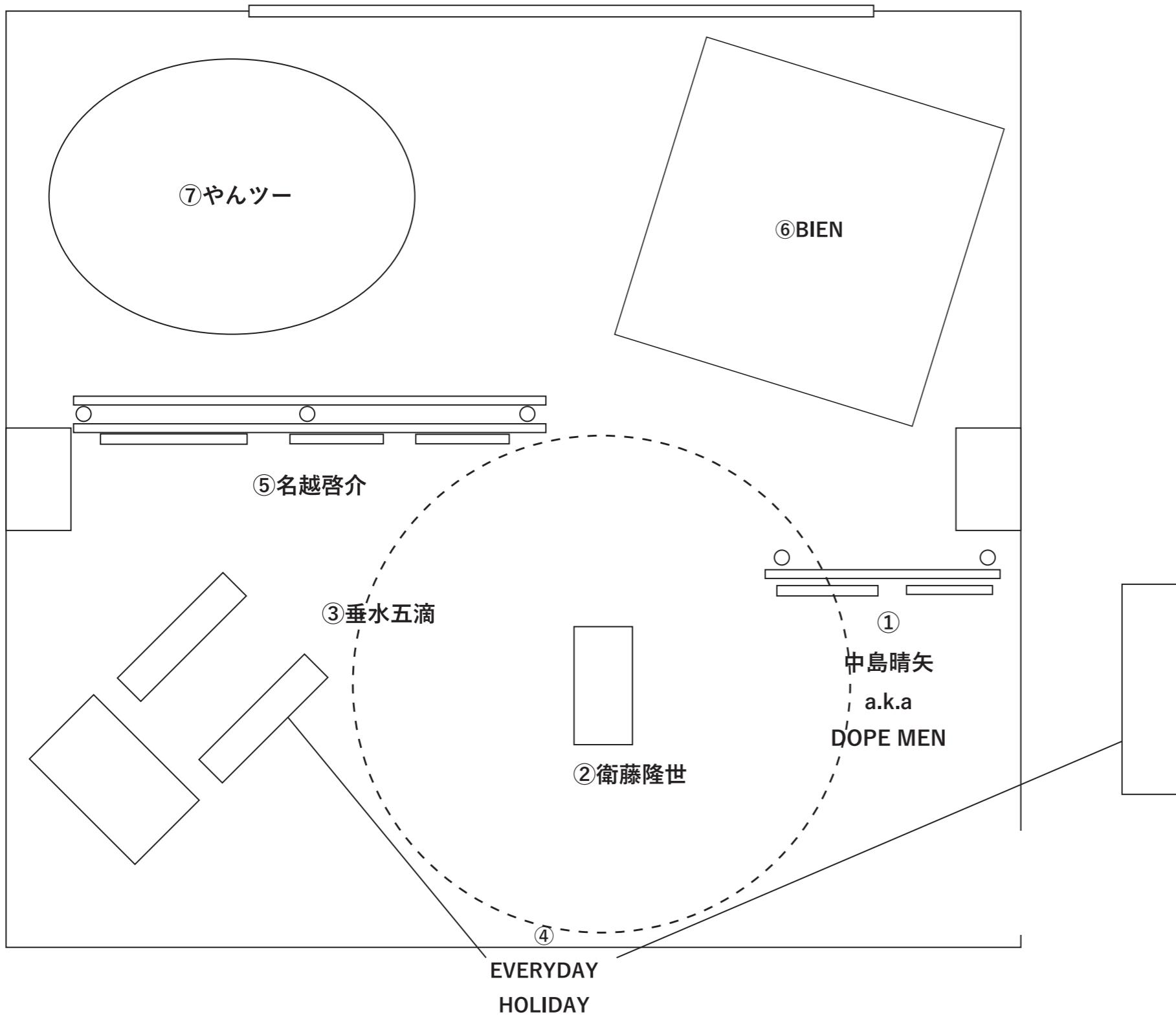


変容する周辺 近郊、団地 in SURVIBIA!! フロアマップ

Transforming Surroundings Suburb,Apartment complex in SURVIBIA!! Floor map



本展覧会はURG(Urban Research Group)企画、2018年10月21日(日)-2018年11月4日(日)、八潮パークタウン37号棟集会所にて行われた展覧会、「変容する周辺近郊、団地」展をスピンオフさせた展覧会です。「均質な風景という既存の郊外論をより細かく観察することで多様性の溢れる物語に塗り替える」とい本展覧会の主旨と「SURVIBIA!!」の「郊外を生きる」は近いテーマ設定であり、この企画に参加する運びになりました。

展覧会コンセプト

湾岸線を運転すると見えてくる、東京湾沿岸の埋め立て地に広がる団地群。それは1960年代以降、高度経済成長をきっかけとした、都市の急激な人口流入に対応するために造成された「近郊団地」である。

前東京五輪開催から、50年にわたり静かに都心に働く人々の生活を支えてきた。

しかし、未曾有の経済成長、バブルの崩壊、失われた10年、グローバリズムの到来、インターネットの普及、東日本大震災という数多の節目を超え、そこに暮らす人々の暮らしと文化は変化しつづけている。

これまで団地を形成した「中産階級の核家族」達は姿を消しはじめ、その代わりに、外からやってきた未知の感性が入り混じり、静寂に立ち並ぶコンクリートの箱の中から異形な文化が立ち上がり始めていている。それらは巨大な求心力を生み、かつて近郊団地がもっていた「中心の周辺」という構造を壊し、都心に向かって文化を侵略し始める。かつては住宅地として設計されたそこで長い年月の末、現在何が起こり、始まろうとしているか。

様々なメディア、年齢の作家たちが都市の近郊、埋め立て地、団地を探っていく。

参加作家一覧

衛藤 隆世
EVERYDAY HOLIDAY SQUAD
垂水 五滴
中島 晴矢 a.k.a DOPE MEN
名越 啓介
BIEN
やんツー

作品解説文

①中島晴矢a.k.a DOPE MEN/Scrap, Run & Build/N.T. State Of Mind

中島は美術家であると同時にラッパーでもあります。

ビートメイカーのMolphobiaと共に「Stag Beat」としても活動をしており、今回の展示では新曲「Scrap, Run & Build」のミュージックビデオを八潮パークタウン内で撮影したものと、ヒップホップミュージックのクラシック(その後百年は世界に影響を与える楽曲を指します)中のクラシックであるアメリカのラッパー、Nasのアルバム「illmatic」のジャケットと収録曲2曲目「N.Y. State Of Mind」をオマージュした《N.T. State Of Mind》を絵画作品として発表しています。

ヒップホップの中で団地はとりわけ重要な要素であり、場所です。

先ほどのNasに限らず、国内外のヒップホップアーティストが「団地やそこでの暮らし」を詩にし、繰り返すビートにのせ楽曲を作ってきた歴史があります。

音楽フェス複合型のNEWTOWN内の本展覧会の序文的な作品となっています。

②ryusei etou/n階から目薬

ryusei etouの作品は、八潮パークタウンにある不動産情報から得た間取りを元に、CG上で団地の部屋を製作、その間取りの中で6個の風景(とエレベーターホールの景色)がマンションのように組み上げられたそれぞれのモニターから映し出される映像作品であり立体作品です。

垂水の短編小説を元に衛藤が解釈を加えながら製作されたループ映像は、彼の独特CGアニメーションの質感や色調に加え、ブラウン管やスマートフォンといったバラバラのディスプレイ上で再生されることで、いつから続いているのかわからない団地や新興住宅地の終わりなき日常を強く意識させますが、その映像の光景は果たして日々繰り返されるだけの退屈な日常の風景なのでしょうか。

いびつな形のタワーの一幕一幕で何が起こり、繰り返されているのか、注意深く観察してください。

③垂水五滴/玄関を出ると100の玄関が見える

垂水の作品は会場に存在するWiFi「玄関を出ると」へ接続することで鑑賞できます。

本来、接続すれば世界へと繋がるはずのフリーWiFiですが、このWiFiは垂水の製作されたWebページに接続する以外に用途はありません。

また、このWiFiは会場でしか扱うことができず、作品ページも自ずとこの会場でしか観覧できません。

接続した先にはグリッド上に区切られたボックスが並び、各ボックスには短編小説が収録されています。

垂水自身が団地出身であり、団地の中に転がる悲喜こもごもの物語を日々感じ、それらを追憶し、また現在の姿を想像しつつ紡いだ作品群は世界に向けて発信するのではなく、その現場においてのみ鑑賞ができる仕組みになっています。

またこの作品はryusei etouの「n階から目薬」とコンセプトを共有し、相互にブレーンストーミングされながら製作されました。

多摩ニュータウンに並ぶ集合住宅一つ一つも、垂水の作品のように「物語が詰まった小さなボックス」の集合体に映っていませんか。

作品鑑賞方法

- 1.お手持ちのスマートフォンなどから会場のWiFi「玄関を出ると」に接続してください。
- 2.しばらくお待ちください、自動的に作品ページに接続されます

④EVERYDAY HOLIDAY SQUAD/curry life

不思議な屋台のような作品は、アーティスト達が展示した団地の住民達から「家庭のカレーのレシピ」を募集し自ら再現、調理したものを会期中入り口付近の長机で振舞う作品です。

レシピの提供者は、世代、国籍をまたぐ様々な住民達です。

カレーの源流はインドにあるものの、人類の文化的発展とともに様々な土地、文化に合わせて多種多様な進化を遂げました。日本にも本国であるインドカレーではなくイギリスカレーがまず伝来し、その後、各食品メーカーの努力の末に国民食へと変貌を遂げ、さらに各地域、各文化と接触、融合し、途方もない細分化を果たしてきました。

もはや世帯の数だけオルタナティブなカレーが存在する、と言っても過言ではないかもしれません。

今作品は、画一的な景色の「団地」の中にある多様性溢れる姿と多国籍化しつつある団地の姿をカレーのレシピから捉えようとする試みなのです。

⑤名越啓介/fammilia

これまでアメリカのスクワッター(不法占拠者)やフィリピンのスマーキーマウンテンの住人と暮らしながら撮影し、作品を発表してきた。

今回、初めて国内に軸足を置いて、ブラジル人を中心に3000人以上の外国人が暮らす多国籍巨大団地「保見団地」(愛知県豊田市)に住み込んで3年間。

自らの住居に白バックを立て込んで簡易スタジオにして外国人住人のポートレートを撮り、彼らと生活を共にして移りゆく四季の中でたびたび訪れる出会いと別れを“同居人”として記録し続けた。同時に、団地に古くから住む日本人、91歳の女性や自治会長と交流し、保見団地に根付くニッポンも強く意識して撮影に取り組んだ。

移民問題が世界中のトピックになっている昨今、足元に目を向けるとごくごく当たり前の風景としてある保見団地の現状。住民のほとんどが高齢者で、20年後にはもしかすると外国人しかいない“外国”になっている可能性もある。

月並みこそ黄金——。

外国人住人たちの日々、瞬間瞬間の喜怒哀樂を追うとそんな言葉が浮かんでくる。

しかしながら、その先には日本の来るべき未来が写っているかもしれない。

(作家本人によるステートメント)

⑥BIEN/Growing Hollow

BIENは漫画やアニメのキャラクターやフィギュアなどをバックボーンに、人の想像力によって生まれてきたそれらの「かたち」をなぞるようなドローイングや立体作品を制作しています。

今回は、本来作品を守るための仕組みであるクレート(木枠)を団地の棟に見立て、その中に取り残されたフィギュアがそのまま成長してしまったような立体作品を発表しています。

かつて団地にいた子供たちも団地から離れ、成長していく中、このフィギュアは団地に取り残されたまま大きくなり身動きが取れません。

体だけがそのまま大きくなってしまい、もはや部屋から出ることの叶わないそのフィギュアはトーンアニメーションの一コマのようでもあり、檻に閉じ込められた囚人のようでもあります。

子供たちと遊ぶ日を夢に見ながら現在も押入れの中で眠り続けている、そんなかつての子供部屋の主役であったおもちゃたちの姿がBIENの「かたち」を結びそうで結ばない、具体と抽象の間を行き来するような造形によって垣間見えます。

⑦yanツー/⑦高齢者のための音声入力機能を用いた自動つぶやきシステム

yanツーは機械やプログラミングを駆使しアートの様々な可能性を探る作家です。

今回の展示では自身の出身地であり、現在も彼の父親が住んでいる神奈川県茅ヶ崎市の団地へ赴き録音した父親へのインタビューが会場には流れています。

インタビューは中央にあるノートパソコンから発信され、もう一方のパソコンがそのインタビューをキャッチし音声入力することで、インタビュー内容は、詩のような変形を果たした文章として再構成され、高齢者のツイッターユーザーのみをフォローしている彼の父親のアカウントからツイートされる作品です。

団地の一室で録音された父親の言葉は、茅ヶ崎の実家から持ち寄った調度品が佇むまた別の団地の和室をさまよい、再度SNSという世界へ放たれていきます。

多くの団地の中で起こっている、局地的に進む高齢化社会やそこで働いているシステムの姿をyanツーの視点から示唆する作品です。